

令和三年度 卒業式 式辞

今年はいつにも増して寒さが厳しく、珍しくこのキャンパスにも雪が積もる日もありましたが、最近の日差しには少しづつ春の気配が感じられ、花や緑から春の息吹がもたらされています。季節は移り変わり、長い寒い冬にも終わりがあり必ず春がやってきます。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業していく十五名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席の保護者の方々にも、心よりお祝いを申しあげます。

また、長引く新型コロナウイルス禍の中で、感染拡大防止のため式そのものの規模縮小と時間短縮のため、来賓のご臨席も昨年度と同様に今年もご遠慮を頂いております。しかしながら卒業生への祝福の気持ちには変わることなく届いておりますので、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申しあげます。

さて卒業生の皆さんは、二年前に花と緑の知識と技能を身に付けることを目標に、本校に入学してこられました。今、今日のこのよき日を迎えるにあたって、このキャンパスで過ごした様々な思い出が頭の中をよぎっていることと思います。

振り返りますと、新型コロナウイルスという目に見えない敵に大きく影響を受け翻弄された二年でした。

楽しみにしていた海外視察研修に行けず、国内視察に切り替えても時期も視察先も制限がかかり、また対面授業も実習にも制限がかかりました。そのような状況でありながらも、現状を甘んじて受け入れ最善の努力をしてくれた皆さんに改めて敬意を表しますとともに、お詫びします。

ともに学んだ友人、花と緑があふれ自然の中にあるキャンパスで過ごした日々は、皆さんの人生にとってかけがいのないものです。そのかけがい

のない経験や人と人とのつながりがこれからの人生にとって大切な財産となることを信じています。

皆さんが入学してきた時に話したことをあらためてお話します。

「植物も土も種も水も肥料もそれだけでは、『資源』のままです。その資源を人々が求める喜び、楽しみ、癒し、そして笑顔をもたらす『資産』に換えていくために必要な能力、技能、技術が皆さんには求められます。」そんな話をしましたが、今後はそれぞれの道で追求して行ってください。

そして皆さんが今後に関わる「花と緑」は人を豊かにする道具ですから、何かの目的のために使って初めてその価値を創造し、社会や人々の役に立ちます。そのリターンが「花と緑」で働く人たち、つまりこれからの皆さんの人生も豊かにします。「花と緑」という道具をどう手入れするか、手入れしなければ道具は使い物になりません。その「手入れ」というのが「技術・技能・知識」を身に付け絶えずスキルアップすることです。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えることができるのは、日ごろの努力の賜物であるのはもちろんですが、支えていただけたご家族や関係者のお陰でもあることも伝えておきたいと思います。

「花」が咲くのも「緑」が生き生きとして成長するのも根っこがあるからです。そして咲き誇る「花」の陰に無数の開けなかつた蕾があります。人は得てして咲いた花の美しさを語りますが、支えてくれるものの強さと優しさ、有難さに気づいて感謝できる人になってください。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉とします。

令和四年三月二日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 今西 良共